

馬獣医のよもやま話②5 水口悠也獣医師

胎盤は宝の山



水口悠也 大阪府出身
平成24年3月 酪農学園大学
卒業
同年4月 日高軽種馬農業協同
組合入社 静内診療所勤務

寒い日が続きますが皆様いかがお過ごしでしょうか？近頃は日も長くなってきて、いよいよ繁殖シーズンの到来です。

今回はそんな繁殖シーズンに向けて、母馬・胎仔の連絡路である胎盤について少し触れたいと思います。

お産後に起こる母馬の蹄葉炎や新生仔の敗血症には胎盤の異常が関与していることがあります。したがって、胎盤の観察を行うことは非常に有意義であると考えられます。すでに実践されている方も多いかもしれませんが、改めてその重要性を認識していただければと思います。

胎盤の観察を行う際の注目点は、①形状、②色調・臭い、などが中心になります。以下に具体的に示します。

①形状

娩出された胎盤を一度広げてみて、細かい欠損部はないかなど入念にチェックします。

分娩後の蹄葉炎は、分娩後の子宮収縮が不十分であった際や難産などで分娩介助をした際などに子宮内に胎盤が遺残する(後産停滞)ことで発症する危険性が高まります。

後産停滞に対しては子宮の収縮を促すオキシトシンの投与や子宮洗浄が有効です。しかし、分娩後の蹄葉炎は発症が急であることも多いため、後産停滞の可能性をいち早く気づくことが一番の予防策となります。加えて、日々の体温測定などをいつも以上に慎重に行うことで発症の危険性を事前に察知できるかもしれません。

②色調・臭い

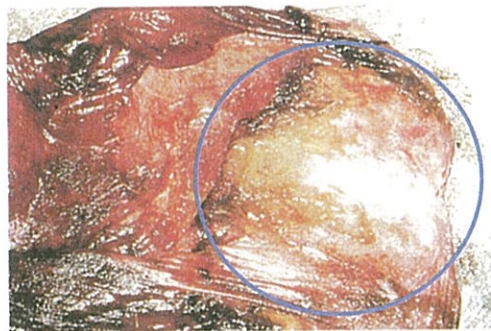
正常な胎盤の色は滑らかな桃色～赤色です。臭いはおしつこのような臭いが混じっていることが多いかと思います。しかし、黄色や茶色味を帯びた色、鼻をつくような臭いがあったときは要注意です。これらの所見は胎盤炎の可能性があります。胎盤炎は流産につながることも多いのですが、たとえ出生しても新生仔が敗血症に陥る可能性があります。そのようなことを念頭に置きながら新生仔を注意深くモニタリングすれば、いち早く異常に気付けるのではないでしょう

か。体温の上昇や哺乳欲の低下など敗血症が疑われるような場合には、早めの抗生物質の投与などの治療が必要です。また、胎盤炎を患った母馬は、予定日より前に乳漏がみられることがあり、このような場合には初乳中の抗体量が低下していることがあります。したがって、分娩前に胎盤炎が疑われるような場合には、母馬の治療とともに新生仔の血液中抗体量の測定が有効です。

また、胎便色に染まった羊膜にも要注意です。一般的には母体内での胎便排出は胎仔のストレス反応とされています。したがって、胎便色に染まった羊膜は胎仔の虚弱体質に関連するかもしれません。

上に示したのは簡単な例ですが、この他にも母馬と胎仔の唯一の連絡路である胎盤は私たちに多くの情報を提供してくれます。さらに、最近では外傷の治療に対する羊膜の有用性なども報告されています。

忙しい時期だからこそ、母子ともに健康であるための予防策を講じる上で、胎盤の重要性を再認識してみたいかがでしょうか。



丸印は胎盤炎罹患部。やや黄色味を帯びている。
Equine Neonatology Medicine and Surgery,
SAUNDERSより引用

『うま獣医よもやま話』からのお知らせ

『うま獣医よもやま話』では、執筆テーマを募集しています。獣医学的なことで皆様を知りたいことや疑問に思っていることなど、HBA獣医師に執筆してほしいテーマをメールまたは口頭にてお知らせ下さい。よろしくお願いたします。

※受付アドレス

(yomoyama@hba.or.jp)